

## 校庭に芝生を植える

さる6月17日（水曜日）に鏡淵小学校で、児童、保護者、地域の皆さん約400人が集まって校庭一面に芝生の苗を植えました。この日は、アルビレックス新潟スクールコーチも激励に駆けつけ、児童ともに汗を流してくれました。今回の芝生化にあたっては、低コストで管理の負担が少ないとされる「鳥取方式」が県内で初めて取り入れられました。鳥取方式とは、ポットで育成した苗を直接グラウンドに植えるもので3ヶ月ほどできれいに生え揃います。“ティフトン”という種類の芝を、50cm間隔にシャベルで穴を開け、ポットから取り出した苗を手作業で植えていくものです。ちょうど田植えに似ていて、造園専門家に指導してもらい約1時間で作業を終えることができました。児童たちはしばらくはグラウンドが使えませんが、3ヶ月後見事に芝生が一面に生え、その上で飛び回ることを楽しみにしているようで、彼らの顔が輝いて見えました。

さて、鏡淵小学校の校庭を芝生化することについては、昨年夏前から小学校、保護者、地域の皆さん方の中で話が始まりました。最初は維持管理に相当の手間隙がかかること、芝生が生え揃うまで校庭が使えないことや、また野球、陸上競技に芝生が適しているのかなどの疑問から反対の意見もありました。しかし、当時の校長先生の的確な情報提供と芝生化にかける熱意で、次第に皆さんの協力体制が出来ていきました。そして今年に入ってから、関係者の中で「鏡淵小学校グラウンド環境整備会」が発足し本格的に役割分担、芝生化のスケジュールなどが具体化したのです。これまで導入した他県で例を見ると、児童達がグラウンドで遊ぶ時間が増えた、走力が向上したなどの健康面ばかりでなく児童たちの情緒面でも効果があったと報告されています。また、保護者、地域の方々との共同作業を通じてお互いの繋がりや理解が深くなることも期待されています。鏡淵小学校では芝生化が成功すれば校庭を地域の皆さんに開放する計画もあるそうです。9月の半ばには校庭一面が緑に変わるはずですから、皆さんで是非見学してください。そして芝生の感触を楽しんでください。